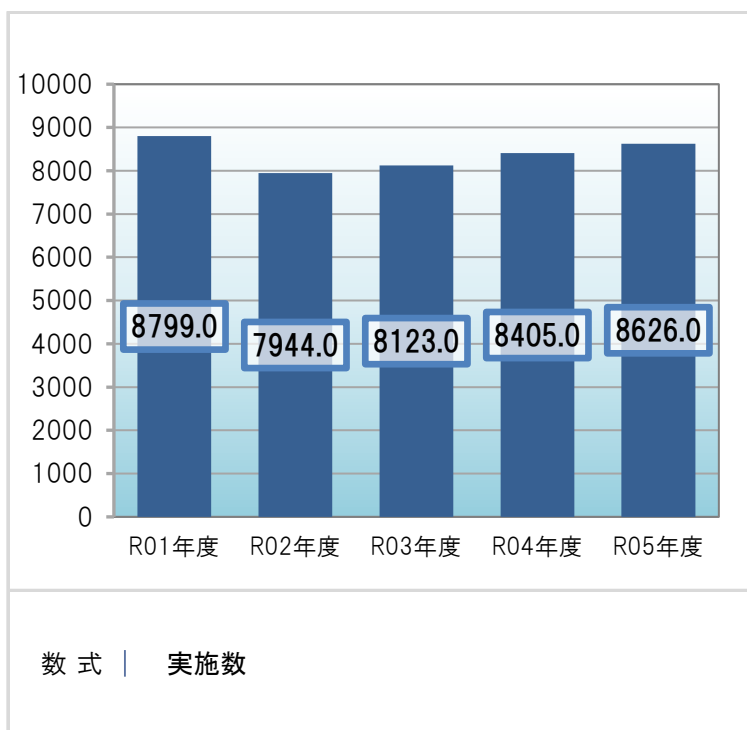


4 手術技術度DとEの手術件数

● 項目の解説

国立大学病院は急性期医療の要であり、外科治療の能力が必要であることは項目2の説明の通りです。この指標は、単に手術件数だけでなく、どの程度難しい手術に対応できるのかを表現する指標です。手術の難しさに必要な医師数を勘案した総合的な手術難度を技術度といますが、外科系学会社会保険委員会連合の試案では、2000種類余りの手術をそれぞれ技術度AからEまでの5段階に分類しています。技術度DおよびEには熟練した手術経験を持つ医師・看護師や器具が必要なので、難易度の高い手術といえます。なお、調査対象期間中に技術度を定める試案が更新されているため、単純な数値比較は難しい点にご留意下さい。

● 当院の実績



備考

手術の技術度については、A～Eの5段階で示され、D群手術は専門医更新者や指導医取得者レベルが実施する手術、E群手術はきわめて難易度の高い、わが国でもごく一部の施設あるいは一部の外科医のみが実施できる手術とされています。

項目2の全手術件数の9割以上の件数をこの技術度D、Eが占め、高度な手術を提供できている事を示しています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。

令和5年度国立大学病院平均値
(100床あたり) 1,051.90件
(令和5年度当院 100床あたり 809.19件)

● 定義

DPCデータを元に算出した、外科系学会社会保険委員会連合(外保連)「手術報酬に関する外保連試案(第9.3版令和3年11月、第9.4版令和5年11月)」において技術度DおよびEに指定されている手術の件数です。令和3年度、令和4年度は厚生労働省科学研究「診断群分類を用いた病院機能評価手法とデータベース利活用手法の開発に関する研究」総括分担研究報告書に収載された「手術Kコードマスター」(第9.3版準拠)、令和5年度は同「手術Kコードマスター」(第9.4版準拠)を使用しました。1手術で複数のKコードがある場合は、主たる手術のみの件数とします。